

令和3年度 第3号

湖畔

北海道立大沼学園

〒041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

TEL 0138-67-2014

FAX 0138-67-2032

hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/>

卒園・卒業の時期を迎えて

園長 赤坂 秀彦

時はあっという間に過ぎるものです。卒園・卒業の時期がやってきました。いにしえから「光陰矢のごとし」と言われていますが、年度末を迎え、まさに実感しています。最初はそうではなかったのですが。

職場と同じ敷地内に暮らし、住まいには職場とつながる内線電話が敷かれる生活は、今まで経験のないものであり、新型コロナウイルス感染拡大防止対策と相まって、休日のリフレッシュもままならず、いつおわるとも知れない緊張感を抱えて過ごしてきました。こうした暮らしがさほど負担にならなくなってきたほどに慣れ、思えばあっという間だと感じさせたのは月日の仕業のみでしょうか。それ以外にもあるように思えます。

この一年、学園で過ごした（仕事とも生活ともつかない）中で目を見張ったのは、子どもたちの変化の著しさでした。これは児童相談所ではあまり経験できません。入園当初は不穏になりやすかった子どもが、次第に分校の先生や園の職員と穏やかに交流できるようになってきたり、生活習慣が身につけていない子どもが、自ら意識して改善を図ろうとするなどといった変化を、この1年足らずの間に目の当たりにできたことも、私自身に月日の短さを感じさせ、心の落ち着きをももたらした大きな一因ではないかと思っています。もちろん、子どもそれぞれには生まれ持った特性があり、中には根深い課題をかかえているものもあり、それが全て改善するという事は容易にはいきませんが、繰り返す失敗を悔いたり、改善に向けて、躓いても努力していこうとする姿勢が見え始めることには感動すら覚え、それは繰り返さずと見ていたい光景でもあります。こうした変化はおそらく、人の中で、信頼関係の中で暮らすことを諦めない気持ちが回復しつつある兆しであろうと思います。中には、職員が押さえていた子どもの課題が、入所当初と微妙に変わっている者もあり、職員がそれに気づいていないのであればいかなものかと思いますが、子どもの変化としては、あながち悪いものではないと思います。こうしたことは、先生や職員たちとの関わりの努力の成果だと思っています。

話は変わりますが、子どもたちの学園生活も様変わりしております。内田自立支援課長が調べたデータでは、30年ほど前は、1年から2年間くらいを学園で過ごす子どもが多かったのに対し、最近では、1年半未満の子どもがほとんどとなったことが読み取れます。在園期間が短縮しているということで、学園での一年を一度経験し、それを活かし次年度に臨むという子どもはほとんどおらず、中には学園の歳事を一通り経験もせず退園する子どもも少なからずいるということになり、子どもの指導期間も「光陰矢のごとく」さらに加速度を増しているようです。養育施設たれという点では残念な気持ちもありますが、より家庭に近い、より地域社会に近い生活を子どもたちに提供すべきといった近年の子ども支援の考え方の影響とも考えられます。

こうした短期間の状況で、学園は何を目指し、支援にどう関わるか、子どもの何に関与するかということは一層大切なこととなります。今段階の私の考えでは、ちょっと間違っただけを学び直し、ちょっと機会を逸して学んでこなかったことを学んでもらって、失いかけた自信や諦めかけていた人への信頼を取り戻すちょっとしたきっかけを作って、また社会へ歩み出すためにちょっと押し出す支援が、基本的に学園がやっていかなければならないことではないかと思っています。こうした子どものちょっとした変化のためには、ともに時を過ごし生活をするという当たり前の日々の関わりの積み重ねが必要であり、しかしながら、これは多大な支援者側の労力が必要であることは言うまでもありません。

また、家庭、地域、児童相談所から受け継いだ子ども支援のバトンを、いかに切れ目なく子どもの次の活躍の場に受け渡すかということや、学園の特長である「枠のある生活」の「枠」は、子どもに対する規制のものだけではなく、安心感・安全感を提供する側面もあることを意識しなければならないということも大切なのではと考えてもいます。

生来怠け者で「少年老い易く学成り難し」を地で行ってしまった私ですが、学園で学び考える機会をまた与えられ、この時期を迎えています。

行事報告 1

< 学園祭 >

児童自立支援専門員 奥田 寛崇

令和3年11月6日、当園の一大イベントである学園祭が開催されました。今年の学園祭のテーマは「輝き」。昨年に引き続き、コロナ禍での開催となり、子どもも大人も皆一様に白いマスクを着用して本番に臨みました。新型コロナウイルス感染症が日本全国で猛威を振るいはじめて、早2年。顔半分を白く覆われた子どもたちの姿は、どれだけ時間が経っても見慣れることはありません。

さて、そのような中で開催された今年度の学園祭ですが、新型コロナの災禍に負けない、子どもたち一人ひとりの「輝き」が際立つ舞台となりました。当日の舞台発表では、ユーモラスな掛け合いで笑いを誘った小学生、映画という新鮮な試みを見事やってのけた中1、大技ひしめく大道芸で喝采をさらった中2、そして深みのあるギターとトーンチャイムの演奏で少年から大人に近づく姿を見せてくれた中3と、それぞれが持てる「輝き」を、これでもかと言わんばかりに見せつけてくれました。つづく和太鼓クラブの発表では、人数の少なさを感じさせない、文字通り「大地を揺らすような」迫力満点の演奏を響かせてくれました。また、実科職員が会食時のパーティーションを作成してくれたことで、コロナ禍以前に近い形での飲食を含む催し物を再現できたことも、盛会の大きな後押しとなりました。今年度は感染症予防の観点から、泣く泣く来場者数の制限を設けていたところですが、子どもたちの懸命な姿に向けられた喝采は、いつまでも耳に残り、今も私たちに鼓舞してくれるほど大きな音となりました。今回子どもたちが見せてくれた「輝き」が、今後の彼らの人生において大きな糧となることを願っています。

新型コロナウイルスに端を発する様々な影響は、今後も続くことが予想されます。それでも、子どもたちが白いマスクの下に笑顔を輝かせられるよう、当園一丸となって努力と工夫を続けていく所存です。

終わりになりますが、子どもたちの輝く姿を披露する機会が設けられたことにつきまして、改めて関係者の皆様に御礼申し上げます。

11月6日に学園祭がありました。

学園祭で僕は大道芸として、けん玉を披露しました。けん玉の技の種類があまり分からなかったので、パソコンなどを使って調べ、本番までの2、3ヶ月間で練習を続けました。

学園祭では、けん玉の技（10級から1級）を披露しました。緊張して失敗し、途中で終わってしまうと思ったけど、練習よりミスが少なくなり、後ろのスクリーンを見ずに、技の順番を間違えることなくできました。自分自身とても嬉しかったし、会場に来て下さった人たちにも楽しんでもらえてよかったです。

和太鼓練習のときには、ヌプリ・トーの群読で、スクリーンが気になってしまったり、演奏の動きが小さくなったりしてしまいました。

本番では約2ヶ月の練習で、先生に言われたことを意識して、臨むことができました。緊張したけど、ミスなく今まで練習してきた成果を発揮できたのでよかったです。

太鼓、けん玉、どちらも成功し、悔いのない学園祭に出来てよかったです。



中2 ダイスケ



11月6日に行われた学園祭は、今まで練習してきた「ぴったりカンカン」も予定通り上手くいき、太鼓クラブもとても上手いってとても良かったです。

太鼓クラブの初日は音が上手く出なかったけど、先生にコツを教えてもらい、少しずつ吹けるようになりました。でも、吹けるようになって、みんなと一緒にやると、緊張してしまい、吹けなかったり、速すぎたり遅すぎたりし、全く合わなかったときもありました。それでも日数を重ねるうちにタイミングが合ってきました。始めたときはすぐに酸欠になり、すぐに疲れたけれども、10月の後半はそういうこともなくなりました。そして本番は見事に大成功

し、昼ご飯もとてもおいしかったし、ストラックアウトも楽しくて良い思い出になりました。今まで練習をした甲斐がありました。とても良かったです。悔いのない演奏を披露できてよかったです。

小6 ライム

僕は大沼学園に来てまだ慣れていない中、すぐに皿回しや太鼓をしなければならなくて、最初は劇団かと思いました。だけど、いろんなことが出来るようになり、なんとか学園祭に間に合ってよかったです。太鼓も間に合わせようとしていなかったら、成功しなかったと思うし、気持ちよく終わらなかったと思います。成功するためには、皆が一つ一つの音をしっかり出さないとこの2曲は完成できなかったと思うし、あそこまで綺麗な音が出なかったと思います。

太鼓クラブが終わり、次の野球クラブでは、早くみんなに合わせて練習や試合ができればなと思います。初めての野球が始まったら、かなり大変になりますが、そこで気を抜くと、練習に追いつかなくなってしまうので、最後まで気を抜かずに野球や生活を頑張ります。

中2 ミヤビ



<もちつき大会>

専門主任 田中 伸章

今年度も年末恒例行事のもちつきを当園内の体育館にて12月20日に開催しました。全国的にコロナ情勢が少し落ち着いていた中、各寮別のテーブル配置、もちつきの時間をずらすなど三密回避には充分配慮しつつ、会食は一斉に行うことができました。

子どもが寮母先生を始め職員の指導をよく聞きみんなで協力して、蒸し上がったもち米を懸命についてこねて、とても出来映えの良いもちが、きめ細かなもち肌になりました。会食では子どもみんなが笑顔で、出来上がったあんこもち、きなこもち、雑煮を何度もおかわりをして、とてもおいしそうに食べていました。

当園には様々な経験をする機会を喪失している子どもが多く、日本の伝統風習であるもちつきは当園の子どもにとって色々なことを学び感じ取り、子ども時代の思い出となる貴重な機会です。

これからも縁起の良い「もち」の粘り強さにあやかり、邪気を払いコロナに負けない心と体を育むため、末永く大切にしていきたい行事です。



僕は大沼学園に来て、初めてのもちつきでした。そのもちつきでは、実科の先生方、寮の先生、園長先生、学校の先生などが来ていて、思ったより大掛かりで驚きました。準備なども大変でしたが、みんなで一緒にやったので、すぐに終わりました。そして、もちをつく杵がとても重かったです。ですが、もちをついていると、粘り気が増し、より重くなりましたが、みんな笑顔で楽しそうについていました。食べる時もマナーを守って食べていたので、とても良い雰囲気で終われたし、「またやりたいな」や「楽しかった」などという気持ちが出てきて、それに感謝の気持ちも出てきたので、自分は嬉しかったです。

中1 リクト

<百人一首大会>

児童自立支援専門員 佐藤 淳哉

昨年度の百人一首大会は、新型コロナウイルスの流行が拡大する最中で中止という判断を余儀なくされました。しかし今年度は、職員側の感染対策を徹底強化することにより大会準備から開催まで運ぶことができ、児童らにとって自らを試す機会を提供できたと考えております。

練習期間には、板かるたの札を覚えるところから始まり普段見慣れない変体仮名に悪戦苦闘する姿がありました。しかし、子どもの順応は目覚ましいほどに早く、実践練習を重ねるにつれ競技カルタのゲーム性を楽しみ自信をつけ、職員らを凌ぐほどのプレーも見せてくれました。

そして大会本番、寮対抗戦・トーナメント戦を行い、児童らの正々堂々と勝負する姿や互いに声を掛け合う姿が見られ、競技会場が厳かな雰囲気にも包まれました。勝負にこだわった結果、惜敗した児童が涙する姿にはこちら目頭が熱くなり、開催した意味を感じられたと同時に、物事に真摯に向き合うことの大切さやその姿が人を感化させるということに改めて思いを致しております。また、そうした体験を与えてくれた児童らにも感謝する思いです。

今後も引き続き、この大沼学園で催される様々な活動を通して、児童らにとって実りのある機会を与えられるよう支援をしてみたいと思います。



【令和3年度 百人一首大会 順位】

○団体戦 優勝：芝蘭寮 ○個人戦 優勝：ツバサ（芝蘭寮）
準優勝：晩翠寮 準優勝：ライム（晩翠寮）
3位：蛍雪寮 3位：アツキ（芝蘭寮）



自分は、今年で3回目の百人一首大会でした。最初は、2回戦で負けてしまいました。次の年のときは、晩翠寮の生徒に負けてしまいました。今年はようやく優勝することができました。1回、2回は負けてしまって、とても悔しかったです。3年間大沼にいるのに、何一つ名前を残すことができていませんでした。自分の目標だった、何かに名前を残すということを達成できてよかったです。

中3 ツバサ

百人一首大会では、嬉しかったこと悔しかったことが一つずつありました。

まず、嬉しかったことは百人一首団体戦優勝です。一戦目の晩翠戦では緊張して実力を出せませんでした。仲間が支えてくれて、2枚差で勝ちました。二戦目の蛍雪戦では、充分の実力を発揮することが出来て、33枚差で勝ち、優勝することが出来て、嬉しかったです。

次に、悔しかったことは個人戦で一回戦負けてしまったことです。一回戦の相手はライム君でしたが、実力を出し切って勝とうと思ったのですが、充分に実力を出せず5枚差で負けてしまいました。予想外でも悔しかったです。

今回の経験を生かして、来年の百人一首大会でリベンジしたいです。



小6 ソラ

行事報告 2

＜雪像制作＞

児童自立支援専門員 松山 一也

2022年の「大沼函館雪と氷の祭典」は、新型コロナウイルス感染防止の影響で規模縮小となりましたが、雪像の展示会としての開催が出来ました。4日間に渡る制作期間では、それぞれの寮、チーム毎に職員と子どもが力を併せて取り組み、無事完成に至りました。

芝蘭寮は、会場一の大きさと迫力を誇り、見ているだけでお腹が膨れそうな『ショートケーキ』を制作しました。

蛍雪寮は、椅子に深々と腰掛け、貫禄のある『大魔王クッパ』を制作しました。

晩翠寮は、今年の干支にちなみ、可愛らしさと凶暴さを兼ね備えた『虎』を制作しました。

小学6年生チームは、今年のM1グランプリで優勝し、子ども達からの人気も絶大な『お笑いコンビ 錦鯉の長谷川氏』の雪像を制作しました。

小学5年生チームは、スーパーマリオの人気キャラクター『ヘイホー』を制作しました。

入所して間もない子ども達はもちろん、大沼学園や大沼岳陽学校鈴蘭谷分校の職員も今回初めて雪像制作に携わる方が多く、経験豊富な職員から知恵や技術を教えて貰いながらの取り組みでした。気温は寒く雪も降りしきる中、子ども達は『楽しそうに』制作にあたり、完成した際の『達成感のある表情』も印象的でした。大人も子どもも、経験者も未経験者も入り交じり、協力しながら1つのものを作り上げるという経験、今回味わった達成感が、彼らが社会に出た際に意味のあるものとなってほしいと願っています。

また、地域との交流という意味でも貴重な機会となっています。自身の頑張りを地域の皆様に見てもらい、喜んでもらう中で、普段から温かく見守ってくださる地域の皆様とのつながりを感じることができ、子どもたちにとっても充実した時間になったと思います。

これからも大沼合同遊船、コンベンション協会、地域の皆様と協力しながら、よりよい地域作りに大沼学園も携わっていかれたらと思っています。

※雪像制作 頑張りました※



ご寄食品等

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(令和3年11月～令和4年2月) ※順不同

七飯更生保護女性会 様

国際ソロプチミスト函館 様

函館心の里親会 様

コカコーラ社(七飯町) 様

函館フーズプランニング 様

ホクレン農業協同組合連合会 様

セイコーマート 様

佐藤 隆三 様

澄 マサノ 様

お詫びと訂正

令和3年度湖畔第2号について、「函館心の里親会」様のご寄贈の記載漏れがありました。以下のとおり訂正しますとともに、関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

(令和3年7月～10月) ※順不同

函館心の里親会 様

セブンイレブンジャパン 様

函館南更生保護女性会 様

ふじの学園 坂本 徳廣 様

東海林 学 様

米田 浩二 様

澄 マサノ 様

編集後記

雪解けが進み、暖かい日差しが入り込むことが増えてきました。今年度を振り返ってみると、世の中の情勢に振り回されながらも、少しずつ日常を取り戻すことが出来てきたと感じています。

3月は別れ、そして4月は新たな出会いの季節です。学園から巣立つ児童も多くいます。社会に出ると、いずれ大きな苦難が子どもたちに立ちはだかると思います。時には下を向き、自分を改めて見つめ直すこともあるかと思えます。そういった時に、学園で共に学んだことを一つのきっかけにし、次の一歩へと歩みを進めて欲しいと強く願っています。

最後になりますが、地域の皆様、各関係機関の皆様、保護者やご家族の皆様、今年度も大沼学園を支えくださり、ありがとうございました。次年度も、大沼学園の伝統を大切にしながら、子どもたちと共に成長していけるよう尽力していきますので、ご指導、ご支援よろしくお願い致します。

児童自立支援専門員 高間 拓希

学 園 の 動 向

令和3年11月～令和4年2月

- 11月
- 6日 学園祭 入所児童の家族、児童相談所職員、関係者、元職員等、59名来園
- 9日 渡島総合振興局社会福祉課・齊藤渉課長ほか職員14名、施設見学のため来園
- 11日 支援会議
- 12日 函館家庭裁判所・木村航晟判事補の引率で函館地方裁判所の司法修習生6名、施設見学のため来園
- 15日 内科検診
札幌市児童相談所・瀬川琴乃児童福祉司、西海谷誠児童心理司、面接調査のため来園
- 16日 苫小牧市立光洋中学校・林周孝主幹教諭、面接調査のため来園
- 17日 職員会議 給食会議
加藤知子嘱託医による「CAREー子どもと大人の絆を深めるプログラムー」研修に園長ほか職員7名参加
- 19日 大沼岳陽学校公演 太鼓クラブ（全児童）が本校に赴き、太鼓演奏を披露
- 22日 避難訓練
- 25日 期末テスト（後期課程 ～26日）
中央児童相談所・森本秀樹所長来園
伊藤福祉指導員、高間児童自立支援専門員、児童移送のため櫻ヶ丘学園訪問
- 26日 名寄市立大学・松木梨紗さん、卒論調査のため来園
家村昭矩元園長、家村共子元晩翠寮寮母来園



- 12月
- 1日 国際ソロプチミスト函館クラブ・佐藤朋子会長、クリスマスプレゼント贈呈のため来園
函館児童相談所・浜和寛子ども支援課長、鈴木いずみ児童福祉司、児童移送のため来園
佐藤秀介児童自立支援専門員、中田児童自立支援専門員、児童移送のため北海愛星学園訪問
退園生O. Hさん来園
- 6日 函館児童相談所・城米大輔児童福祉司、金川夏希児童福祉司、関戸茉美保育士、児童移送のため来園
松山児童自立支援専門員、伊藤福祉指導員、札幌市要保護児童対策地域協議会参加のため札幌市児童相談所訪問
- 9日 職員会議
- 12日 理髪
- 13日 内科検診
- 14日 中田児童自立支援専門員、学校見学のため児童を引率し北海道教育大学附属特別支援学校訪問
- 15日 岩見沢児童相談所・三浦辰也主任児童福祉司、富樫悦子児童福祉司来園
支援会議 給食会議
医学診断（加藤嘱託医）
- 16日 北海道教育委員会・青山夕香委員、北海道教育庁総務政策局総務課・国安隆課長補佐、視察・意見交換のため来園（渡島教育局教育支援課・成田仁課長、同教育支援係・石川博隆係長随行）
七飯町・與田敏樹教育長来園
札幌市児童相談所・小田いくえ児童福祉司、一時保護中の児童を引率し来園
- 17日 札幌市児童相談所・瀬川琴乃児童福祉司、西海谷誠児童心理司、面接調査のため来園
- 20日 本庁子ども子育て支援課・柿本英敏課長補佐来園
もちつき実施
- 24日 第2学期終業式
- 27日 冬期一時帰省開始
松山児童自立支援専門員、伊藤福祉指導員、児童移送のため札幌市児童相談所訪問
- 28日 残留行事（ボウリング、温泉入浴、外食）実施
- 30日 残留行事（映画鑑賞）実施
- 31日 残留行事（温泉入浴）実施

1月	
3日	残留行事（スキー遠足）実施
6日	冬期一時帰省終了
12日	百人一首大会（～13日）
16日	理髪
17日	旭川児童相談所・菊地綾子児童福祉司、安田英広判定員、児童移送のため来園
19日	第3学期始業式 医学診断(加藤嘱託医) 給食会議
20日	職員会議 職員1名が新型コロナウイルスに感染したことが判明し、感染防止対策を講じる（～29日）
2月	
1日	内田自立支援課長、奥田児童自立支援専門員、児童面接及び児童福祉事務打合せのため旭川圭泉会病院、旭川児童相談所訪問 スキー学習（1回目） 家村昭矩元園長、北海道家庭学校・藤原浩寮長、藤原美香寮母、施設見学のため来園
2日	内田自立支援課長、奥田児童自立支援専門員、旭川圭泉会病院から児童移送し帰園
4日	スキー学習（2回目）
7日	函館大沼雪と氷の祭典・雪像作り参加（～10日）
12日	晩翠寮園外活動（温泉入浴）実施
13日	理髪
14日	内科検診
16日	職員会議 給食会議 医学診断（加藤嘱託医）
18日	スキー学習（3回目） 帯広児童相談所・梅澤健志主任児童福祉司、馬場洋平判定員、児童移送のため来園
19日	蛭雪寮園外活動（わかさぎ釣り、温泉入浴）実施 晩翠寮園外活動（わかさぎ釣り）実施
24日	旭川児童相談所・岡村修一児童福祉司、西森里絵児童福祉司、面接調査のため来園 支援会議 期末テスト(後期課程7・8年生 ～25日)

